

巻頭言

グローバル人材育成教育学会 理事長 小野 博

グローバル人材育成教育学会第8回全国大会が2021年2月6、7日の2日間にわたって鹿児島大学主管（実行委員長 原隆幸副会長）で開催されました。本学会初の遠隔方式による全国大会でしたが、国際遠隔会議などその特徴を活かした大会を開くことができ、今後の学会運営にも大きな影響を与える全国大会になったと思います。

昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大で、大変残念なことですが、全国大会の準備委員会も集まることができず、Zoomによる会議を実施しました。今回の目玉であった第1回国際遠隔会議の開催までの経緯について述べます。昨年10月28日に全国大会の準備委員会をZoomで行い、開催日程、開催方法、統一テーマなど基本的な取り組みについての話し合いが終わった後、懇親的な自由討論の場で、「遠隔でやるならその特性を活かした全国大会を考えよう」との発言があると、「多くの会員は、いつになったら学生の海外派遣や受け入れができるようになるのか知りたいのではないか」「今後の展開を学生にどう説明したらよいかで悩んでいる」……との切実な声が沸き起こり、自然発生的に、「せっかく遠隔で開催するなら、海外にいる会員や会員の知人をお願いして、アジア太平洋地域の大学を結び現状報告をしていただければ」とのアイデアが浮かび、あっという間にまとまりました。

具体的な方法として「Zoomで海外の大学教員を結び、①その国、大学の町の感染状況、②コロナ下での大学における授業の実施方法、③現在及びこれからの留学生の送り出し、受け入れの見通し等を報告していただき、会員と質疑応答を行えば、大いに会員に役立つのではないかと提案したところ、準備委員から「台湾の大学にお願いできる副学長先生がいる」「ベトナム、ハノイには有力会員がいる」「私の出身のオーストラリアの同級生に話してみる」「ハワイの大学で話してくださる先生を知りませんか」……とトントン拍子で議論が進み、全国大会のメインイベントとして海外の大学と連絡を取り合い、「アジア太平洋最新教育事情と国際交流のニューノーマル：現地のCOVID-19・大学の授業状況・派遣と受入留学の現状」という国際会議案がまとまりました。それから準備担当の会員が精力的に連絡を取り、ハワイ、オーストラリア、台湾、ベトナム、スリランカの教員が参加してくださいました。

企画した時点と開催時では、刻々と変化する世界的な新型コロナの感染状況の中で、海外の大学の最新情報を得て、大学に持ち帰り議論の材料にしたいと言う会員が多かったようで、大成功でした。また、事前に口頭発表の動画を提出していただく方法で一般演題16件、学生発表13件の発表もあり、さらに、全国大会で恒例となった学生発表はZoomとオンデマンド方式で行われ、こちらも大変好評でした。教育連携部会企画では、高校生達も立派に英語や日本語でスピーチを発表していました。

学会終了後にはZoom情報交換会（懇親会）もあり、充実した全国大会になりました。学会としては今後、2年後の10周年記念の全国大会や書籍の出版等を考えており、今後も遠隔会議が続きそうです。新型コロナ下でもより多くの会員のご意見を集め、議論や活動が一層盛んになることを期待しています。

（西九州大学健康福祉学部 客員教授 小野博）